

平成26年度青森県公社等経営評価書

(平成25年度決算ベース)

法人名等				法人の自己評価(経営評価指標)	
7	(公社)青森県観光連盟				
所管課名	観光国際戦略局観光企画課				
決算状況 (単位:千円、%)					
出資	資本金	県出資額	県出資比率		
	20,500	6,000	29.3		
決算	前期一般正味財産増減額	当期一般正味財産増減額	一般正味財産期末残高		
	▲ 68,927	▲ 43,015	337,225		
資産	資産	負債	正味財産		
	453,653	95,928	357,725		
財務分析指標					
正味財産比率	経常比率	総資産当期経常増減率	県財政関与率	補助金収入率	【目的適合性】 ◎
78.85	93.21	▲ 9.33	49.62	9.49	中核的な観光団体として、地域の観光団体や観光事業者、市町村など観光の担い手となる関係団体との連携を図ってきており、今後も取組の一層の推進を図っていただきたい。
受託等収入率	管理費比率	人件費比率	流動比率	借入金比率	
26.91	1.02	23.73	377.27	0.00	
経営評価結果				【計画性】 ◎	
評価区分	C:改善措置が必要			観光をめぐる環境の変化にも対応しながら、計画の推進を図っていただきたい。	
<p>&lt;財務状況&gt; 財務の状況については、3期連続の赤字となっている。当法人が管理する青森県観光物産館アスパムの展示物等に係る減価償却費が当面高い水準に推移することから、貸会議室事業等の収益事業において約1億円の利益があるものの、今後も、赤字傾向が続く懸念がある。</p> <p>&lt;経営状況&gt; 法人が自己評価した経営評価指標の項目については、財務状況の健全性において、収支が赤字となったこと等により低調であり、また、経営の効率性においては、人件費・管理費等に係る指標が悪化したことにより、若干低調となっている。アスパム館内の照明のLED化など経費節減の取組に努力しているが、多角的視点からの更なる取組に期待する。</p> <p>&lt;改善事項等&gt; 当法人は、本県経済における観光産業の比重が高まる中で、全県的な観光振興の中心的な役割を担う組織である。今後も、平成28年度の北海道新幹線開業に伴うデスティネーションキャンペーンが予定されており、こうした機会を的確に捉え、各種観光振興事業に積極的に取り組むとともに、財務上の課題等の解消に向けた取組を進めていく必要がある。特に、平成29年度以降、減価償却費の低減が見込まれているが、展示物等の陳腐化への対応等も想定されることから、減価償却費を見込んだ収益確保が図られるよう、収支構造の転換を求めたい。</p> <p>また、観光振興業務を、より効果的・戦略的に実施していくため、県を含め関係機関の役割分担を明確にし、関係機関等の特性を活かした自主的・自律的取組を期待するものである。そのためにも、当法人の自律的運営の強化が必要となることから、プロパー職員の育成・強化に努めるとともに、県からの派遣職員の計画的な引き揚げを求めたい。</p>				【組織運営の健全性】 ○	
				公益社団法人としての内部管理体制を維持するとともに、観光振興事業の自立化を推進していただきたい。	
				【経営の効率性】 ○	
				持続的・継続的な法人の運営に向けて、観光振興の好機を捉えながら、収支改善を図る必要がある。	
				【財務状況の健全性】 △	
				持続的・継続的な法人の運営に向けて、経営基盤の一層の強化を図る必要がある。	